

**重点課題** ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎適切な主語を補い、文の内容を考えて、二つの文に分けることができていない。  
(設問 四3 通過率 34.0% 県 34.6%)

◇比喻を用いた表現が含まれている一文を抜き出し、その表現が「誰」の、「どのような」様子なのかを明確にし、自分が感じたことを具体的に書くことができていない。(B 設問1三 通過率 24.2% 県 41.7%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)**

◎読み物教材を扱う際に、結論や主張につながる根拠の部分に線を引かせる指導を行い、文章の内容を理解する手立てにさせる。また、「主語」「述語」を意識して文章を読むように指導していく。

◇自分が感じたことや考えたことを述べるときには、その根拠を明確にする必要があることを繰り返し指導していく。

※小中一貫の取組については、呉型カリキュラムに基づいて小学校からの系統性を意識した指導を継続し、論理的思考力を高めていくとともに、資料を活用しながら自分の考えを書く活動に重点を置く。

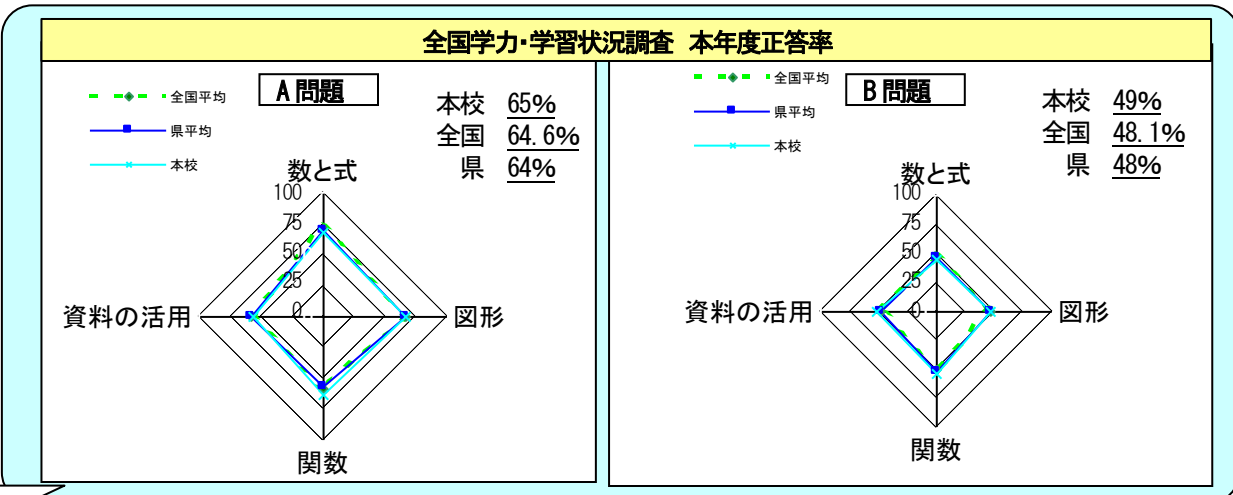
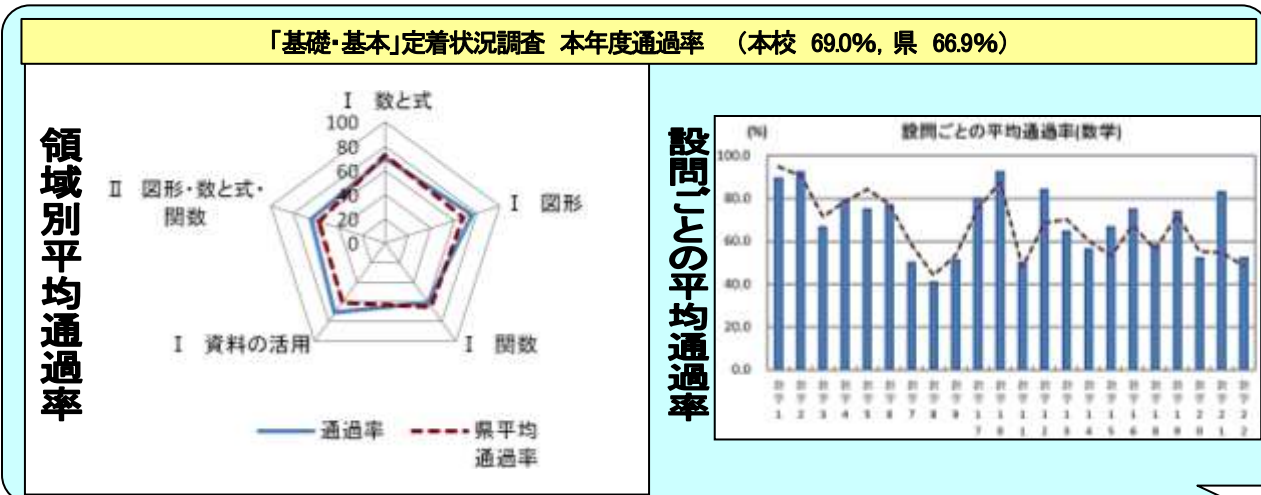
◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生・中間試験		2年生・期末試験		2年生・調査問題	
目標値		50%		55%		60%	
実施後数値		65.6%		78.3%		61.7%	

◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生・中間試験		3年生・期末試験			
目標値		40%		45%			
実施後数値		22.3%		41.1%			

**来年度に向けて**

主語や述語は、かなり理解できている。しかし、文章が長くなると筆者の主張やその根拠に線が引けていない生徒が多い。今後は文章の構造にも着目させ、自分の意見を書いたり、読んだりさせていく。



**重点課題** ◎「基礎・基本」定着状況調査 ◇全国学力・学習状況調査

◎錐体と柱体の体積の関係についての理解が不十分である。  
(設問 6 (1) 通過率 50.5% 県48.1%)

◇2つの図形の間を回転移動として捉え、数学の用語や数学的な表現を用いて説明できていない。  
(設問1 (2) 通過率 8.1% 県13.7% 全国14.0%)

**重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)**

◎図形の学習の際に、図形の性質や関係を予想させ、その図形をよく観察したり、作図したりする操作や実験などの活動を通して確かめるなど、実感を伴って理解できるようにする。

◇移動の様子だけでなく、他の領域においても、変化の様子や理由を説明するときなど、数学の用語や数学的な表現を用いるように指導する。

※小中一貫した取組については、問題の資料から必要な情報を選択し、図や言葉、式を使って表現する活動を繰り返し行う。

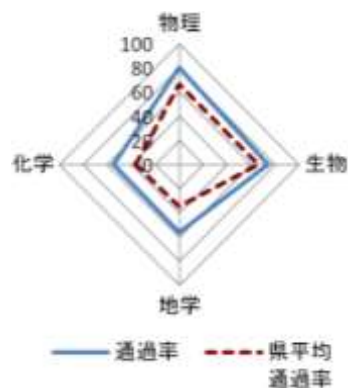
◎「基礎・基本」	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年生・中間試験		2年生・期末試験		2年生・調査問題	
目標値		55%		60%		65%	
実施後数値		56%		65%		88%	
◇全国学力	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		3年生・中間試験		3年生・期末試験	3年生・学年末試験		
目標値		30%		35%	40%		
実施後数値		42%		43%	44%		

**来年度に向けて**

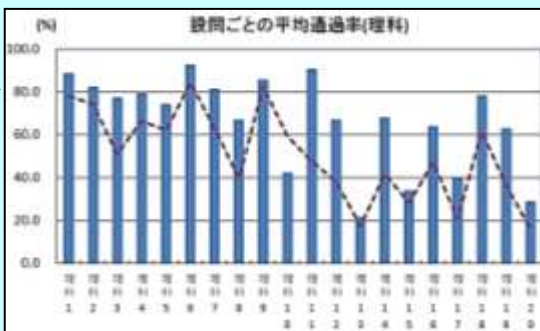
各領域において、数学的な活動や、数学の用語や数学的な表現を用いて説明する場面を増やす。  
説明が困難な生徒には、キーワードを与えるなどの工夫をして、スモールステップで説明が完成させるようにする。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 66.3%, 県 50.8%)

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

◎①いくつかの情報の中から分類に必要な観点を選ぶことに課題がある。  
(設問 5 (3) 通過率 21.6% 県 17.5%)

◎②状態変化する温度は物質によって変化しないが、物質の質量が変わると加熱時間が変化することの理解が不十分である。  
(設問 8 (2) 通過率 28.9% 県 16.2%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)

◎①共通点や相違点を比較して、自ら観点を選び、基準を設定して分類を行う活動を計画的に行い、分類の仕方を理解できるようにする。

◎②状態変化の学習の際に、班ごとの結果を比較する際に、融解したり沸騰したりする温度は同じ物質ならば変わらないが、物質の質量が変わると加熱時間が変化することを確認できるようにする。

※小中一貫した取組については、観察・実験結果から分かることを科学的に探求したり、科学的な言葉や概念を使って思考したりする活動に重点を置く。

◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年・期末		2年・調査問題	
目標値				50%		60%	
実施後数値				39%		79%	

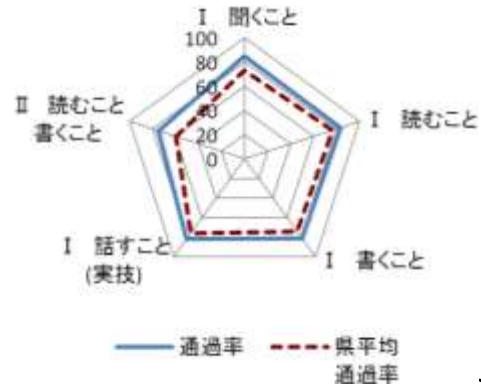
◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1年・期末		2年・調査問題	
目標値				50%		60%	
実施後数値				54%		63%	

来年度に向けて

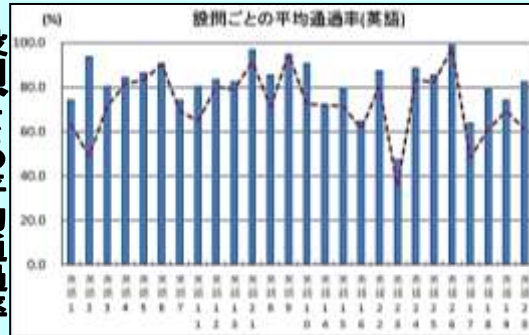
実験・観察結果を比較・分析して考察する経験を積んできたが、わかったつもりでいても科学的な言葉を使って説明することができない生徒が多い。科学的な現象を図と言葉を用いて表す機会を計画的に設けて、自分で説明できるようにしていく。

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 81.7%, 県 72.4%)

領域別平均通過率



設問10の平均通過率



重点課題 ◎「基礎・基本」定着状況調査

- ◎① 根拠となる英文の読み取りができていない。  
(設問 11) 1 通過率 63.9% 県48.4%)
- ◎② 会話の場面に応じて適切に英文を書くことができていない。  
(設問 10) 2 通過率 64.9% 県 61.1%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業等)

- ◎① まとまりのある英文を読んで、必要な情報を整理しながら読み取ることができるように、5W1Hのようなキーワードにアンダーラインを引かせながら読みとりをさせる。また、情報を読み取らせて、メモを完成するなどの活動を継続的に行う。
  - ◎② 質問される内容について、つながりのある英文で表現する活動を継続的に行うことができる。様々な種類の質問に対して適切に答えたり、継続的に対話できる活動を行う。また、対話の流れが適切になるように、場面に応じた応答を考える活動を行う。  
(Are you ~?, Do you ~?, Does he ~?, Did you ~?, What ~?, What+名詞~?など)
- ※ 小中一貫した取組については、教室英語を(教師→生徒, 生徒→教師, 生徒⇄生徒)増やしたり、英語に対する苦手意識を減らしたりする。

◎「基礎・基本」①	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年・中間		2年・期末		2年・調査問題	
目標値		65%		70%		80%	
実施後数値		60%		65%		71%	

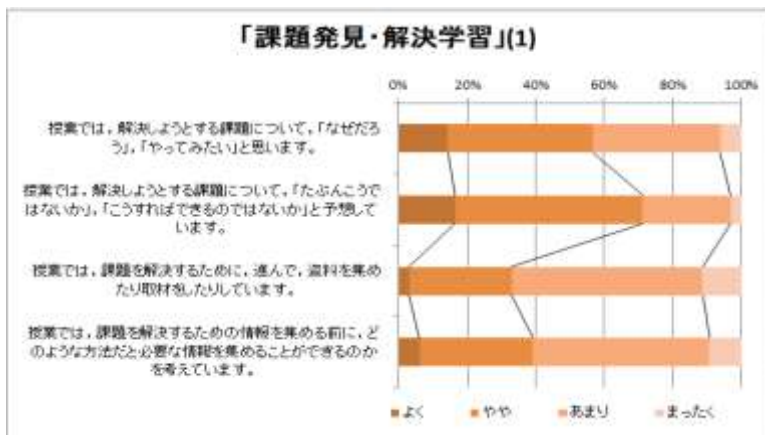
◎「基礎・基本」②	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年・中間		2年・期末		2年・調査問題	
目標値		65%		70%		80%	
実施後数値		63%		67%		79.7%	

来年度に向けて

- ① 英文の読み取りについて、語彙の正確な認識に課題がある。辞書の活用を通して語彙力を高めていく。
- ② 適切な応答については、対話形式で基本的なやりとりを継続的に行い、引き続き定着を図っていく。

2 質問紙調査 (「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査) (全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査)

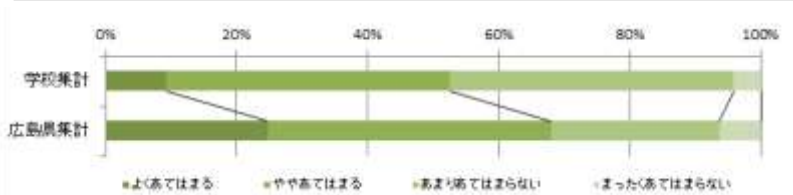
(1) 生活・学習



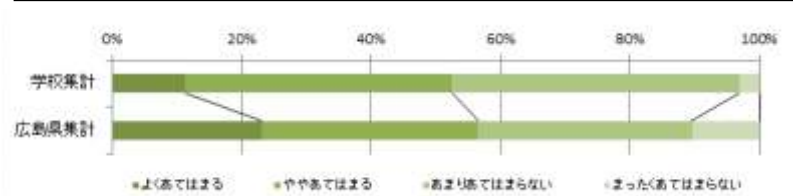
	生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
基礎・基本	授業では、課題を解決するために、進んで、資料を集めたり取材をしたりしています。(本校 39.9%, 県 33.0%)	課題解決のために、どのような資料や情報が必要かを考えさせ、自分で取材したり調べたりする時間を設けるようにする。	2	50%	アンケート	2月	40%	0.1%
全国	話し合い活動で自分とは異なり意見や少数意見を尊重し、話し合い、意見をまとめているか。(肯定的評価：本校 35.4%, 広島県 44.5%, 全国 40.5%)	学活、道徳だけでなく各教科をはじめ学校生活の中で多くの話し合いの場を設定する。その中で生徒一人ひとりが自分の意見を持てるよう指導して行く。	3	50%	アンケート	12月	77%	41%

(2) 教科

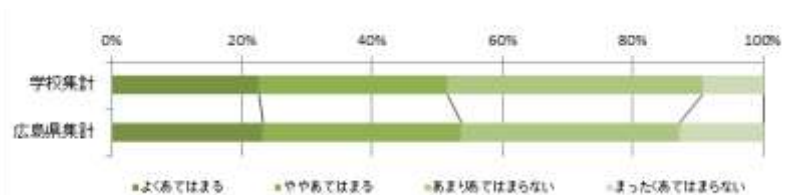
国語の授業では、伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。



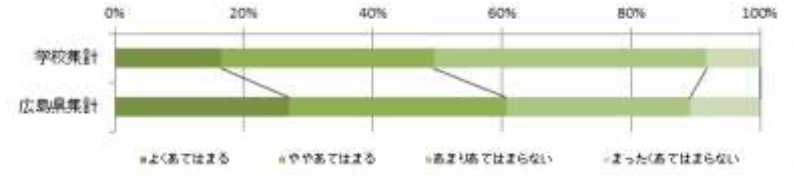
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの幅
国語	基礎・基本 伝えたいことの方がうまく伝わるように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりしています。(本校 52.6%, 県 68.0%)	スピーチをする機会を多く設定するように、話の組み立てを考えて話したり、話の中心を考えながら聞いたりするように指導する。	2	70%	アンケート	2月	56%	3.4%
	全国 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。(本校 55.6%, 県 69.8%)	自分の考えを書くときは、その根拠を必ず書いていくことの指導を徹底していく。	3	60%	アンケート	2月	85%	29.%
数学	基礎・基本 解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。(本校 52.6%, 県 56.6%)	小グループにおいて考え方を交流する場面を設定するとともに、発表の際にはその考えの根拠をはっきりさせる。	2	65%	アンケート	2月	57%	4.4%
	全国 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。(本校 70.8%, 県 73.6%)	解き方が複数個ある問題などは指名の順番を考えたり、生徒に投げかけたりして、解法は1つだけではないことを意識させる。	3	75%	アンケート	1月	77%	5.7%
理科	基礎・基本 自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。(本校 51.5%, 県 53.7%)	考察する場面では、小グループを活用して、班長を中心にして話し合いを行うようにする。また、発表した内容を他の班と交流する時間を設け、考えを伝え深めるようにする。	2	65%	アンケート	2月	56%	4.5%
英語	基礎・基本 自分の考えや気持ち、事実などを英語で話している。(本校 49.5%, 県 60.7%)	課題の設定の工夫を行い、課題に対して、自分の考えや感じたことを相手に伝えたり、グループで交流したり場面を設定する。	2	70%	アンケート	2月	54%	4.5%